

委員 井上隆司、岡村康司、久保義弘、樽野陽幸、鍋倉淳一、日比野浩、松岡達、  
宮田麻理子、柚崎通介

**報告事項** 委員会報告の形式から逸脱した箇所もあるが、今期の国際交流活動について記す。

## 1. 第94回日本生理学会大会(浜松)における国際交流関連シンポジウムの企画

第94回大会において、下記3件を実施する。日中、日韓は、元々のKOJACHの予算を使用して、日台は、今回、大会ではなく学会本体の予算を使用して、新規に行うものである。いずれも、招待講演者一人につき15万円を上限とする旅費、滞在費の支援を行う。

### (1) 日中合同シンポジウム

Japan-China (CAPS) Joint Symposium -Towards FAOPS2019-

“Progress in computational physiology”

Chairs: Dr Satoshi Matsuoka (Fukui Univ) & Dr Jianwei Shuai (Xiamen Univ)

Speakers: Dr Jianwei Shuai (Xiamen Univ) **PSJ 招待**, Dr Shinya Kawaguchi (Doshisya Univ),  
Dr Satoshi Matsuoka (Fukui Univ), Dr Kunichika Tsumoto (Osaka Univ)

### (2) 日韓合同シンポジウム

Japan-Korea Joint Symposium -Towards FAOPS2019-

“Mitochondrial homeostasis in cardiovascular function and disease”

Chairs: Dr Motohiro Nishida (NIPS) & Dr Jin Han (Inje Univ)

Speakers: Dr Jin Han (Inje Univ) **PSJ 招待**, Dr Fan-Yan Wei (Kumamoto Univ),  
Dr Hisao Yamamura (Nagoya City Univ), Dr Motohiro Nishida (NIPS)

### (3) 日台合同シンポジウム

Japan-Taiwan (CPS) Joint Symposium -Towards FAOPS2019-

“Ion channels in physiology and patho-physiology”

Chairs: Dr Akiyuki Taruno (Kyoto Pref Med Univ) & Dr Pei-Chun Chen (Natl Cheng Kung Univ)

Speakers: Dr Pei-Chun Chen (Natl Cheng Kung Univ) **PSJ 招待**,  
Dr Shi-Bing Yang (Inst Biomed Sci, Academia Sinica) **PSJ 招待**,  
Dr Akiyuki Taruno (Kyoto Pref Med Univ), Dr Hiroko Takeuchi (Osaka Univ)

## 2. 中国生理学会 (CAPS) 主催の国際生理学会 2016

CAPS 主催の国際生理学会(2016年9月25-28日、北京)

2016 International Conference of Physiological Sciences が開催された。

総参加者数は、887 人、参加者数の上位国は、Mainland China (747)、USA (52)、UK (17)、日本 (13)、Chinese Taipei (12) とのことである。

### (1) CAPS-PSJ 合同シンポジウム

PSJ から提案したシンポジウム 2 件が、実施された。(既出なので、簡略化して記載)

#### **“Physiology and Pathophysiology of Cystic Fibrosis Transmembrane conductance Regulator (CFTR) in Asia: Asian CF and CFTR-mediated non-CF disease”**

Chair: Dr Yoshiro Sohma (Keio Univ)

Speakers: Dr Hiroshi Ishiguro (Nagoya Univ),  
Dr Tsukasa Okiyoneda (Kwansai Gakuin Univ) (他 3 名)

#### **“Dynamic aspects of structure, function, regulation and physiological relevance of ion channels”**

Chairs: Dr Yoshihiro Kubo (NIPS) & Dr Zhuan Zhou (Peking Univ)

Speakers: Dr Yasushi Okamura (Osaka Univ), Dr Hiroko Takeuchi (Osaka Univ) (他 3 名)

### (2) Plenary Lecture

PSJ から推薦した丸中良典教授(京都府立医科大学)が、Plenary lecture を行った。

### (3) 第 94 回大会(浜松)の宣伝活動

大会事務局から預かったビラを配布した。また、会期中に開催された FAOPS 理事会においても、Travel Award 等について説明し、積極的な参加を呼びかけた。

## 3. オーストラリア生理学会 (AuPS) 大会での AuPS-PSJ 合同シンポジウム

先に、AuPS President の Graham Lamb 教授より、AuPS 2016 大会(2016 年 12 月 4-7 日、アデレード)において、PSJ から 2 名の講演者を招いて、両生理学会による豪日合同シンポジウムを開催したい旨、連絡があった。大会長からの正式な要請が届かなかつたため 4 月 30 日に Lamb 教授に問い合わせたところ、シンポジウム枠は既に決まり、今回は見送ることになったとの回答を得た。(先方の学会長と大会長との間で、意思疎通に問題があったようである。)

改めて、2017 年 11 月下旬のメルボルン大会において合同シンポジウムを開催したいとの意向が示された。手遅れになることがないように催促をかけたい。具体的な企画依頼が届いたら、PSJ 会員に提案を求め、ぜひ実現したい。

## 4. IUPS 2017 (Rio) 関連

IUPS 分科会から別途報告があると思われるので、本委員会に関連する点を中心に記す。

IUPS2017 が、2017 年 8 月 1-5 日、リオデジャネイロ(ブラジル)にて開催される。

- (1) 学術会議 IUPS 分科会の御子柴克彦委員長等と相談しつつ、Plenary Lectures 3 名、Keynote Lecturers 3 名を、個人の立場で、久保から提案した。
- (2) 提案した中から、Plenary Lecturer として、宮下保司先生(東大、順天堂大)が決定した。
- (3) 提案した中から、Keynote Lecturer として、御子柴克彦先生(理研 BSI)と、柳沢正史先生(筑波大)が決定した。
- (4) IUPS 本体の Denis Noble 会長からの、丸中理事長あて、ノーベル生理学医学賞を受賞された大隅良典先生(東工大)を、IUPS2017 に Plenary Lecturer として招聘したいと考えており、日本生理学会からも後押ししてほしいという旨のメールが届き、丸中理事長が対応された。
- (5) プログラム委員会から、シンポジウムの提案依頼が届いた。学協会でのとりまとめは求められておらず、個々人で提案する形であるため、日本生理学会会員に web page への掲載、および一斉メールの送付により、提案を呼びかけた。

IUPS2017 ホームページで、確定したシンポジウム 50 題が発表された。そのリストによると、PSJ 会員が提案し Chair を務めるシンポジウムは 2 件採択された。また、日本人のシンポジウム講演者は、全体で 8 人含まれている。

## 5. CPS (台湾の生理学会) 大会での Plenary lecturer の推薦

Chinese Physiological Society (CPS)(台湾の生理学会)の、学会長 Shaw-Jenq Tsai 教授、および執行部代表 Po-Shiuan Hsieh 教授から、PSJ に対し、合同年会 2017 Joint Annual Conference of Biomedical Science (JACBS)(2017 年 3 月 25 日-26 日、台北)における ”GI physiology including gut microbia and metabolic syndrome” 研究分野の Plenary lecturer の推薦依頼を受けた。国際交流委員会で協議の上、箕越靖彦教授(生理研・生殖内分泌発達機構)を推薦し、決定した。

## 来年度事業計画

来年度 2017 年度には、FAOPS2019 の直前の大会となる第 95 回大会が 高松にて 2018 年 3 月に開催される。(講演者個々人ではなく)FAOPS 各国の生理学会とコンタクトして企画する合同シンポジウムを、財政負担が重くならない方法を考えながら、可能ならば 4 件行いたいと考えている。

---

## 常任幹事会への提案(議事として諮りたいこととお書き下さい)

無し